

# 関節リウマチは不治の病ではない 今すぐ専門医に相談を

教えて  
ドクター

川崎リウマチ・  
内科クリニック  
院長・小井戸則彦先生



川崎市立川崎病院内科、感  
染症科部長を経て、平成19  
年10月開院(川崎市幸区大  
宮町1310、ミューザ川崎2階)

関節のこわばり、腫れが気になっていても、関節リウマチと診断されるのが怖いからと、一人で悩んでいませんか。早く見つけて適切な治療を始めれば、関節リウマチは治ります。最新の情報と治療法について、小井戸則彦先生に聞きました。

## 治療法が大きく変わり 関節破壊を防ぐことも可能に

関節リウマチは、もともと壊れて、場合によってはもとの遺伝的素因のある人は内臓の障害まで起こりますが、年齢、性別などを含めてしまします。

60年くらい前までの治療は、消炎鎮痛剤を使っただけで、痛みを軽くすることしかなかった。その後、ステロイド剤を使いましたが、副作用が強く、かたがた痛みは取れるようになりませんでした。でも、これはリウマチそのものの治療で、時間と薬をたくさん使っても、関節の破壊は進んでいきました。

最初の症状は、関節のこわばりや腫れ。進行すれば、関節が変形し、関節の破壊は進んでいきました。

きてしまします。

1970年に抗リウマチ薬が登場して、やっと本格的なリウマチ治療が始まり、関節が壊れるのを防ぐことができるようになった。

そして今、生物学的製剤という薬が登場し、治療の選択肢が増えました。日本では2003年から抗リウマチ薬が効かなかった患者さんに生物学的製剤が使えるようになった。関節リウマチの治療目標が大きく変わりました。この薬を適切に使うと、腫れや炎症を抑えて進行を止めるだけでなく、今まで使っていた薬をやめることができるようになります。治療する期待がもてます。

初期段階からの適切な治療で  
日常生活に不具合がなくなる

最新の治療法は、初期段階から適切な薬を使った強力な治療を開始すること。特に、抗リウマチ薬と生物学的製剤のおかげで患者さんの生活の質が大きく変わりました。生物学的製剤は痛みや変形を抑えるだけでなく、普通の人と同じような日常生活を送ることができるようになります。すでに30年以上もリウマチを患っている人が生物学的製剤を使い始めて、関節の変形が少し戻った例もあります。人工関節を勧められていた段階でも、手術をしないで済む例もあります。

また、全身のたるさが取れるとも言います。だいたいというのは免疫が異常に作用している証拠。(取材協力/中外製薬)

関節の違和感が長引いたり、関節が一つでも痛ければ、まずリウマチを疑って、専門医を受診することをお勧めします。早いうちに見つけて治療を始めれば治る可能性は高まります。関節リウマチはもう不治の病ではありません。発病してから年月が経っている人も、セカンドオピニオンのつもりで、もう一度相談してみたいかがですか。